

第 4 回 「川崎市学校評価事業運営委員会」 会議録（案）

- 開催日時 平成 19 年 5 月 17 日（木） 9 時 30 分～11 時 30 分
- 開催場所 川崎市教育会館 第 3 会議室
- 出席者
- ・委員 村井委員、松下委員、千々布委員、宮嶋委員、中村（亮子）委員、横山委員、白井委員、藤田委員、杉田委員、鈴木委員、中村（秀雄）委員、加藤委員、隅田委員、垣東委員、渡邊委員
 - ・事務局 中島、江尻、小松、佐藤（利行）
- 欠席委員 高木委員、前島委員
- 次第
- 1 開会のことば
 - 2 委員紹介（資料 1）
 - 3 川崎市学校評価事業運営委員会設置要綱について（資料 2）
 - 4 委員長、副委員長紹介
 - 5 委員長挨拶
 - 6 議案
 - (1) 第 3 回委員会会議録の確認（資料 3）
 - (2) 検討事項
 - ①川崎らしい「川崎版学校評価システムモデル」の作成について
 - 資料 4 学校評価事業運営委員会及び研究協力校の 18 年度の成果と 19 年度の課題
 - 資料 5 19 年度の事業内容
 - 資料 6 「川崎版学校評価システムモデル」について
 - ②学校評価事業運営委員会の日程及び内容について（資料 7）
 - (3) その他（次回日程等）
- 傍聴者 1 名
- 協議内容
- 2 委員と事務局が自己紹介を行った。
 - 3 川崎市学校評価事業運営委員会設置要綱について資料 2 に基づいて確認を行った。
 - 4 委員長、副委員長を事務局が紹介した。
 - 5 委員長が挨拶を行った。
 - 6 議案
 - (1) 第 3 回委員会会議録について、（資料 3）のとおり確認された。
 - (2) 検討事項
 - ①川崎らしい「川崎版学校評価システムモデル」の作成について
- 資料 4、5、6 の内容について、事務局が補足説明を行った。

- 委員長 大きな流れの説明があった。質問があれば出してほしい。今回は、評価そのものの意味が問題になった。川崎らしいとは何か、川崎独特の教育目標、教育内容があるか。評価方法があるか、内容と方法の両面から出してほしい。
- 委員 リーフレットについて質問したい。p 4 外部評価委員会の組織で、川崎で考えている外部評価委員会は第三者評価を考えていないのかということが一点と、外部評価委員会の役割と学校推進会議の役割の関係はどうか。
- 事務局 外部評価については今年度検討を進めることになっている。
昨年度の協力校において、学校教育推進会議の子どもを除いた委員で外部評価委員会を構成した事例がある。
- 委員長 自己評価、外部評価、第三者評価の言葉の整理をしておきたい。
教育の主体である教師たちによるものが「自己評価」、それ以外子どもたちや保護者、地域の方々を「外部評価」、学校と全然関係のない人たち、客観的にとらえてくださる方たちによるものを「第三者評価」として考えている。
- 委員 学校評価の基本線は「自己評価」で、学校から変わっていくことが大切。「外部評価」には、保護者や地域住民など学校に関係のある人が含まれているため、国では最近「学校関係者評価」という言葉を使うようになっている。
- 委員 子どもや保護者のアンケートは「自己評価」なのか、「外部評価」なのか。
- 委員 子どもや保護者のアンケートは「自己評価」の資料である。その結果を学校の教職員が検討して外部評価委員会にかける。外部評価委員会の委員として、子どもや保護者が入ることもある。
- 委員長 外部評価委員会のあり方については改めて検討したい。論点を戻して、川崎らしさとは何かについてお願いしたい。
- 委員 私の考える川崎らしさは、学校教育推進会議の存在と、区担当指導主事の存在。これが川崎の特徴である。この二つは、どう機能しているのか。
- 委員 かわさき教育プランにはいのちや心の教育、人権尊重教育が入っている。子どもの権利条例の意見表明権を保障し、学校教育推進会議での発言を認めている。子どもの主体性、人権を大切にする。区担当指導主事は、地域密着型の教育を推進しようとするものである。
- 委員 区担当指導主事は、学校を巡回したり、支部校長会に参加したり、学校の課題を吸い上げ、問題解決を図っている。校長が一人で抱えるのではなく、他機関との具体的な連携方法等情報を提供する。まだ十分とは言えないが、今後成果が期待される。
- 委員 私のところでは、学校教育目標を作るときに「夢教育2007」や「かわさき教育プラン」を参考にした。共に生きる、心を育てることを第一に考えている。支部制は去年から始まったのでまだわからないが、共に問題を解決する姿勢が出てきた。
- 委員 川崎の特別支援教育の特徴は、全校に特別支援学級があることと、教員と保護者が連携しながら進めていることにある。保護者は、自分の子どもの成長という視点でチェックする。
- 委員長 保護者の要求は、外部評価の一つの要素ではあるが、すべてではない。もう一度特色に戻るが、今までの中に学力の問題は全然出てこないが。
- 委員 地域で子どもたちを育てる地域教育会議という組織がある。今のところ学校選択制は取り入れていないし、市診断テストの結果も公表していない。競争原理を入れず、自尊感情を大切にする方針をもっている。

- 委員長 親の立場からどうか。目線としてあげるときに、学力向上は当然のこととして心を大切にすることをあげるだけでよいか。
- 委員 地域にあった教育は必要なことなのだと思います。教育問題は保護者なしでは考えられない。
- 委員 小学校は心の教育を大切にしたいが、中学校になると受験があるので、学力もあげてほしい。大きくなればなるほど心の教育は大切。家庭と学校の連携が必要。
- 委員 学校教育の推進に当たっては、子どもの声に耳を傾けることが基本なので、子どもも学校教育推進会議の一員として入れている。もう一つ川崎には、進取の精神がある。新しいものを取り入れること、取り入れるに当たってはよく話し合い、十分時間をとって取り入れてきた。川崎の教育は、行政も含めて、上からの押しつけではなく、みんなで一緒に作っていかうとする姿勢がある。
- 委員 横並びにしない、数値的評価をしないことも考えられる。
自分の学校が時系列で変わっていく調査、保護者の評価も上がっている評価の実践例があったが、感心した。学校が変わっていく仕組みを考えられればよい。
- 委員長 心の教育を軸にするからといって学力向上をやめたということではないのか。
- 委員 学力のベースは、意欲と心。学力か心かということではなく、心を大切に、子どもを大切にすることが、学力向上にもつながる。
- 委員長 子どもが生き生きとしていれば学力も自ら向上するという意見と思われる。次はこれを具体的に評価にしなければならない。こんな目盛りを作ってこんな方法でという良い知恵があればお願いしたい。
- 委員 気軽に話せる先生がいる、楽しいなどの数値が上がっていけば子どもの気持ちとかみ合っていることがわかる。評価項目によっては数値でもはかれる。
- 委員 学校が楽しいという数値を出すことは可能だが、数値は加工できるので、注意が必要。どんな活動の場が保障されているかなどを見ることも大切。数値はあくまでも目安とする。
- 委員 できたかできないかについては、点数だけでなく、他の解き方を考えられたかどうかを確かめることも重要だ。
- 委員 学校は情報を発信しているつもりでも、十分でない。質問項目に、そう思う、おもわないだけでなく、よくわからないという項目を入れた方がよい。発信が足りないことがそこからわかる。
- 委員 羅生門的評価といわれる視点がある。数値だけでなく具体的な事実を基にいろいろな視点から評価することが大切だ。
全校に調査をしたら、86.5%は勉強がわかる。という結果が出た。見方によっては良い数字だが、13.5%は勉強がわからないということである。いろいろな視点から意見を出して、学校が考えていく、変わっていくものでありたい。
- 委員長 子どもたちの心が育つということが大きなねらいとするならば、心が育ったかどうかを評価するために、数値的なものとするのか、記述をするのか、具体的に育ったかどうかという点だけでも良いと言う気がする。具体的な評価方法が作れるかどうか、協力校にお願いしたい。
- 委員 何が課題なのか、どう変えていったらよいか。課題を明確にするためにどうしたらよいか。どんな調査、分析がよいかを考え、学校を良くするためにどうすればよいか分かる学校評価をすることが大切である。

- 委員 学校の特色、自分の学校がどんな課題をもっているか、どんな視点で見れば課題が明らかになるかを示せるとよい。
- 委員長 それらをも含めて各校で具体化するために研究してほしい。
今後の進め方の見通しについて、事務局で説明をお願いしたい。
- ②学校評価事業運営委員会の日程及び内容（案）について資料7を基に事務局が提案した。
- 委員長 質問等あるか。協力校の先生方に参加していただくに当たり、要望等あるか。
- 委員 モデルというのは全市で統一して行うのか、項目を示すだけで実際は各協力校で行うのか。
- 事務局 統一できるものと、学校独自のものと、二本立てで行う。
- 委員 7月に出されるものを学校は取り組むのか、7月に出されるものが一つの枠組みであってそれを基に各学校で取り組むのか。
- 事務局 一つの視点として出したい。それをもとに学校にお願いし、学校の方法と検討していただき、7月にこちらからお願いする部分と学校で幅をもたせて行う部分と提案させていただく。
- 委員長 大枠であったが川崎らしさが何となく見えた。この川崎らしさの具体化については各学校工夫していただくとうれしい。
テーマとそれをどう具体化するのか、次回の会議で提案してほしい。
- 委員 協力校に求められているのは、モデル提示なのか、事例提示なのか。学校目標もそれぞれ違うので、学校独自に行えば良いと思うが、7月に出されるモデルのために我々は検証して評価するのか、モデル案を作るのか。
- 委員 センターから視点を出してもらい、その中からどこに力点を置くかということではないか。
- 事務局 モデル提示と言うより事例提示をしていただく中で分析をこちらで行う。心の育ちを聞く項目も違う中で、こんなことをしているということ、いろいろなケースを紹介すると言うことも含めて協力をお願いする。視点は示すことになる。
- 委員 モデル提示ではないということ、各校の事例を出し合って、よりよい自分の学校のものを作るということか。
- 委員 学校評価を行っていたが、今まで言葉の使い方を間違っていた。言葉の明確化を浸透させていかなければならないと思う。
- 委員長 前回のリーフレットでも出してはいるが、十分理解していただけなかった。
- 委員 自己評価を受けた上での「外部評価」という定義からはずれ、単に学校外の人が評価することを「外部評価」と解釈している人がいる。それは、国や市の定義を理解していないと批判するのではなく、そのような解釈のものでどのような学校評価や学校改善が可能かという検討が必要。

(3) その他（次回日程等）

次回の日程 平成19年7月19日（木） 9時30分～11時30分
川崎市教育会館第1・2会議室